

## 事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 安八町教育委員会
2. 研究主題 : [調査研究Ⅱ] 小規模校を存続させる場合の教育活動の高度化
3. 研究タイトル : 確かな読む力を身に付け、自らの考えを豊かに伝え合う子の育  
～個に応じた指導・援助と豊かに伝え合う交流活動の工夫をい  
～
4. 研究課題 : (1) 小規模校のメリットを最大化させる方策  
■ ア. 少人数であることを最大限に生かした教育活動に関する研  
(研究課題)  
①徹底した個の見届けと個に応じた指導・援助の工夫、指導改善サ  
ルの確立  
②家庭、地域とつながり、豊かに伝え合う力を育む読書活動の工夫
- (2) 小規模校のデメリットを最小化させる方策  
■ ア. 学校間ネットワークの構築  
(研究課題)  
①郷土愛を育み、豊かに伝え合う力を発揮できる他校の小学生との  
活動の工夫
- イ. 社会教育と密接に連携した学校教育活動  
(研究課題)  
②豊かに伝え合う力を発揮できる地域の方との交流活動の工夫
5. 事業の実績  
(1) 調査研究のねらい

・本牧地区は、揖斐川沿いの輪中地帯で畑作農業地域が多いため、新しい住宅が建つことは少なく人口も減りつつあるが、地域の住民は、「地域の学校」としての意識が強い。

・一昨年度半年間、本事業の採択を受け、文学的文章の「読むこと」で単元を通して並行読書を位置付け、毎時間単元を貫く系統的な言語活動を各学年が行ってきた。単元の初めに「お話の心に残った所を紹介するために、お話宝箱を作ろう」等、単元を貫く課題(単元の出口で目指す目標)を子どもに示し、それに沿った目的的な読みを行うことで、子どもは主体的、意欲的に読むことができた。第3次では、魅力カードやお話宝箱等で、並行読書で読んできた本について読み取ったことを紹介し、単元で付けた力(指導事項)に付けることができた。教材文と並行して自分の選んだ本を読んでいくこと(並行読書)で、より物語の面白さについて深く考えたり、多くの本に親しむ機会が増えて読書が広がったりして、自分の読み取ったことを豊かに伝えようとする主題に迫ることができた。

・本事業の2、3年目を迎えた昨年度と今年度は、小規模校のメリットを最大化させる方策として、以下に取り組んだ。

【メリットの最大化①】(徹底した個の見届けと個に応じた指導・援助の工夫、指導改善サイクルの確立)  
少人数だからこそできる一人一人の個性や力の徹底した見届けを個人カルテを活用して行い、一人一人が確かな学力を付ける個に応じた指導・援助を工夫する。  
話す、聴く等の学び方、確かな学力を身に付けさせるための個に応じた指導・援助は、少人数の教職員だからこそ共通理解しやすく、共通行動のもと指導できるはずである。指導改善サイクルを確立させ、PDCAサイクルで目標の達成状況を見届け、点検し、指導改善を図る。

【メリットの最大化②】(家庭、地域とつながり、豊かに伝え合う力を育む読書活動の工夫)  
図書館教育が牧小の伝統であるだけでなく、読書に親しむ牧小校区へと広げるため、国語の文学的文章「読むこと」第3次の発展学習で他学年児童、他県の小学生(越廼小学校)、家庭、地域の方に並行読書の紹介する機会をもち、豊かに伝え合う力をより育む。  
保護者も巻き込んで読書意欲を喚起し、家庭での読書を通した親子のふれあいが深まることを目指す。

・小規模校のデメリットとして、クラス替えもなく保育園から同じメンバーで生活しているため、多くの出会い、多様な考え方に触れる機会が少ないことがあげられる。そこで、デメリットを最小化させる方針として、より多くの人とふれあい、交流する機会を意図的に設定し、国語や図書館教育を通して育んだ自らの考えを豊かに伝え合う力を発揮できるようにするため、以下の2点に取り組んだ。

【デメリットの最小化①】（郷土愛を育み、豊かに伝え合う力を発揮できる他県の小学生との交流活動の工夫）

進んで挨拶したり、感想を豊かに表現したりする子を育成し、視野を広げ、異なる地域や人々に親しみ、協力し合おうとする気持ちや態度を育む。デメリットを最小化する方策をデータで客観的に検証できるように、交流した相手から表現についての評価をいただく。

【デメリットの最小化②】（豊かに伝え合う力を発揮できる地域の方との交流活動の工夫）

進んで挨拶したり、感想を豊かに表現したりする子を育成し、相手に分かりやすく伝えるための話し方、丁寧な話の聴き方を身に付けさせる。デメリットを最小化する方策をデータで客観的に検証できるように、交流した相手から表現についての評価をいただいたり、保護者や児童による学校評価、推進会議の評価を確かな位置付けたりする。

## (2) 調査研究の実施状況（平成29年度）

	メリットの最大化、デメリットの最小化のための職員研修等	メリットの最大化 ①個に応じた指導・援助の工夫 指導改善サイクル ②読書活動の工夫	デメリットの最小化 ①他校の小学生と交流活動 ②地域の方との交流活動
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化・人口減少に対応した活力ある教育活動推進事業、主題研究の共通理解 P</li> <li>・有識者による研究の進め方等の指導D</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」D</li> <li>①「家庭学習のレベルアップ週間」の取組 D</li> <li>①A・B問題トレーニングプリントを朝学習で行う。D</li> <li>①朝のスピーチ開始 D</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①越廼小学校との「すいせん交流安八」 D</li> <li>①交流活動の相手（越廼小の先生方）からの挨拶や伝え合う力に対する評価をいただく。</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生全校研究授業研究会 C</li> <li>・6年生全校研究授業研究会 C</li> <li>・第1回推進会議（研究授業参観）C</li> <li>・ICT機器の有効活用研修会D</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①4年生全校研究授業 D</li> <li>①6年生全校研究授業 D</li> <li>②6年生から越廼小6年生への本の紹介作品送付 D</li> <li>②交流活動の相手（越廼小の先生方）からの作品に対する評価をいただくC</li> <li>②PTA母親委員会の読み聞かせD</li> <li>②PTA家読のすすめ D</li> <li>①「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」D</li> <li>①「家庭学習のレベルアップ週間」の取組D</li> <li>①A・B問題トレーニングプリントを朝学習で行う。D</li> <li>②読書月間パートI D</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②交流活動の相手（越廼小の先生方）からの挨拶や伝え合う力に対する評価をいただく。C</li> </ul>

7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の学習指導についての自己評価実施と分析「牧小学校の授業はこれだ！」</li> <li>「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」「家庭学習のレベルアップ週間」の反省と改善 CA</li> <li>・牧小学校評価（保護者、児童、教職員）CA</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」D</li> <li>①「家庭学習のレベルアップ週間」の取組 D</li> <li>①A・B問題トレーニングプリントを朝学習で行う。D</li> <li>①②多読賞表彰、話し方・聴き方名人表彰 C</li> <li>【町】</li> <li>・登龍校区・東安校区家庭学習レベルアップ週間実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①越廼小学校との「すいせん交流 in 越廼」D</li> <li>①交流活動の相手（越廼小の先生方）からの挨拶や伝え合う力に対する評価をいただく。C</li> </ul>
8月		<ul style="list-style-type: none"> <li>②図書館整備 D</li> <li>②図書の本のバーコード化D</li> </ul>	
9月		<ul style="list-style-type: none"> <li>①「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」 D</li> <li>①「家庭学習のレベルアップ週間」の取組D</li> <li>①A・B問題トレーニングプリントを朝学習で行う。D</li> </ul>	
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進校の視察（岐阜市立則武小学校）D</li> <li>・「豊かに伝え合う力」アップ研修 D</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①3年生全校研究授業 D</li> <li>①2年生全校研究授業 D</li> <li>①「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」D</li> <li>①学力確認テスト（A問題、B問題対応）の実施 C</li> <li>①「家庭学習のレベルアップ週間」の取組D</li> <li>①A・B問題トレーニングプリントを朝学習で行う。D</li> </ul>	
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生全校研究授業研究会 C</li> <li>・第2回推進会議（研究授業参観）C</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①1年生全校研究授業 D</li> <li>①「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」D</li> <li>①「家庭学習のレベルアップ週間」の取組 D</li> <li>①A・B問題トレーニングプリントを朝学習で行う。D</li> <li>②読書月間パートII D</li> <li>②PTA母親委員会の読み聞かせD</li> <li>②PTA家読のすすめ D</li> <li>②地域の方の読み聞かせD</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②ほうれん草の会の本の読み聞か（3年） D</li> <li>②交流活動の相手（ほうれん草の会方）からの挨拶や伝え合う力に対する評価をいただく。C</li> </ul>

12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2学期の学習指導について自己評価実施と分析 「牧小学校の授業は、これだ!」「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」「家庭学習のレベルアップ週間」の見直し CA</li> <li>・ 牧小学校評価(保護者、児童、教職員) CA</li> <li>・ ICT機器の有効活用研修会 D</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」D</li> <li>①「家庭学習のレベルアップ週間」の取組D</li> <li>①A・B問題トレーニングプリントを朝学習で行う。D</li> <li>①②多読賞表彰、話し方・聴き方名人表彰C</li> <li>②全校ビブリオバトル</li> </ul> <p style="color: red; text-align: center;">(町内3校) ・登龍校区・東安校区 家庭学習レベルアップ 週間実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①三校合同ビブリオバトル交流会</li> <li>②交流活動の相手(名森小、結小の方)からの挨拶伝え合う力に対する評価をいたしたC</li> </ul>
1月		<ul style="list-style-type: none"> <li>①「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」D</li> <li>①「家庭学習のレベルアップ週間」の取組D</li> <li>①A・B問題トレーニングプリントを朝学習で行う。D</li> <li>①岐阜県学力テストの実施C</li> </ul>	
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 有識者による講演会 D</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②1年生から保育園児への本の読み聞かせ(入学説明会)D</li> <li>②保育園の先生から挨拶や伝え合う力に対する評価をいただく。C</li> <li>①「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」D</li> <li>①「家庭学習のレベルアップ週間」の取組D</li> <li>①A・B問題トレーニングプリントを朝学習で行う。D</li> <li>①学力確認テスト(A問題B問題対応)の実施 C</li> <li>①CRTテスト C</li> <li>②地域の方の読み聞かせ D</li> </ul> <p style="color: red; text-align: center;">【町】 ・登龍校区・東安校区家庭 学習レベルアップ週間実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②感謝する会 E</li> <li>②地域の方から挨拶や伝え合う力に対する評価をいただく。C</li> </ul>

3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生を送る会 DC</li> <li>・3学期の学習指導についての自己評価実施と分析</li> <li>「牧小学校の授業は、これだ!」「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」「家庭学習のレベルアップ週間」の見直し CA</li> <li>(終了14日)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「話し方・聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」 D</li> <li>①「家庭学習のレベルアップ週間」の取組 D</li> <li>①A・B問題トレーニングプリントを朝学習で行う。D</li> <li>①②多読賞表彰、話し方・聴き方名人表彰 C</li> </ul>	
----	---	---	--

## 6. 事業の成果

## (1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

<p><b>【研究課題】：【小規模校のメリットの最大化①】</b>  (徹底した個の見届けと個に応じた指導・援助の工夫、指導改善サイクルの確立)</p> <p>具体的目標：  ・単元で付けたい読む力（指導事項）を一人一人に確かに身に付けさせる。  ・話す・聴く等の学び方や確かな学力（基礎・基本）を身に付けさせる。</p> <p>検証  →学期末テスト「読むこと」全学年平均点85点以上  →学力確認テストA問題平均点70点以上 B問題平均点50点以上  →「牧小の授業は、これだ!」「話し方、聴き方の月目標達成に向けての系統的指導」等の教師評価A50%以上、A+B90%以上  →牧小児童評価「はきはき発表」A50%以上、A+B90%以上</p> <p>◎「読む」の学期末テストでは、学年によって差があるが、ほとんどの学年が平均点が85点を上回り、期待得点に到達することができた。個人カルテを活用した個に応じた指導・援助は、単元で付けたい読む力を一人一人に確かに身に付けさせるのに有効であったと言える。</p> <p>▲A問題学力確認テスト(基礎)では、向上が見られた学年もあるが、下降傾向にあり、70点以上達成は1学年のみであった。B問題学力確認テスト(活用力)では、3学年で向上が見られたが、50点以上達成したのは2学年のみであった。</p> <p>▲学力確認テストでは、徹底した個の見届けと個に応じた指導・援助の工夫、指導改善サイクルの確立がメリットの最大化策として有効かを検証することはできなかった。</p> <p>◎3年間の個人カルテの継続により、個を見届けるためには、たとえ少人数でもさらに「本時は、この子の指導を」と抽出児を決めて指導に当たることが効果的な指導・援助になることが分かった。</p> <p>◎牧小児童評価「はきはき発表」では、A50%以上、A+B90%以上を目指していた。平成29年度1学期は、A50%は到達できたが、A+B90%をわずかに下回った。2学期はA50%がわずかに下回ったが、A+Bはほぼ90%を達成した。話す力、聴く力は、全校集会の感想発表時でもほとんどの子が挙手し、感想の内容もより具体的で一人一人の思いを語るできるようになり、高めることができてきたと考えられる。</p> <p>▲但し、他項目と比べると、「よくできている」という高い評価をしている割合は、決して多くはない。また、学年によって差も見られる。話し方、聴き方の指導の在り方を教職員で共通理解しながら、学校全体で指導を継続していく必要がある。</p> <p>▲教師評価では、1学期は90%がA+B「おおむねできている」と評価しているが、そのうちA「よくできている」は20%ほどで昨年度より下降した。</p> <p>◎2学期は、A50%がわずかに下回ったが、A+Bは100%を達成した。「豊かに伝え合う力アップ研修」を位置付けたり、ビブリオトーク交流会においてステップ7を目指した指導を全教職員が意識して行ったりした成果であると言える。</p> <p>◎家庭学習レベルアップ週間、話す・聴く取組週間、家読週間等、いろいろな取組をしているが、それを関連させ、児童自身の学習意欲をさらに高めるような新個人カルテを作成した。記録の継続をすることで、一人一人の特徴、がんばりを把握できるようになり、担任教師は、その子に合った声かけ、励ましを心がけている。</p>
---

**(研究課題) : 小規模校のメリットの最大化②****(家庭や地域とつながり、豊かに伝え合う力を育む読書活動の工夫)**

## 具体的目標

- ・読書意欲を高め、より多くの本を読もうとする児童を増やす。
- ・保護者も巻き込んで読書意欲を喚起し、家庭での読書を通じた親子のふれあいが深まることを目指す。
- ・地域にも読書の楽しさを発信して交流を深め、地域に愛着をもつことができる。
- ・「読書に親しむ牧小校区」へと広げ、地域住民にとってなくてはならない学校としていくことを目指す。

→学期別平均貸出冊数 低100冊 中50冊 高40冊

→家読アンケート とてもよかった+よかった 高学年70%以上

◎図書の本の一人あたりの学期別貸出冊数は、少しずつであるが増えており、今年度は1学期平均68.7冊、2学期86.5冊と最も多い読書冊数となった。図書委員会が働きかける6月の読書月間パートI、10月～11月の読書月間パートIIの成果もあるが、今年度より取り組み始めた新個人カルテにより、毎月自分の分類別読書冊数をふり返っているの、翌月の意欲化につながったことも考えられる。

◎昨年度、学年別の平均読書冊数を見てみると、学年による差が非常に大きかったが、今年度は、高学年特に6年生の読書冊数がグンと向上した。今年度より取り組み始めた新個人カルテにより、毎月自分の分類別読書冊数をふり返っている成果と言える。また、高学年は、家庭でも忙しくなかなか読書の時間がとれないという実態から、学校生活においてすぐ傍らに読書中の本を置き、隙間の時間に本を手取るよう働きかけてきた成果が出てきたと考えられる。

◎児童評価の「並行読書は、楽しくできているか、家読にも進んで取り組んでいるか」は、55～60%がA「よくできている」85%がA+B「おおむねできている」と高い評価をしている。

◎PTA母親委員会による読み聞かせや図書館の本のバーコード化、「家読」に取り組んだことで、今年度も家庭における読書意欲の向上や本を通じて親子のふれあいが行われた報告を受けることができた。

◎「今後も家読を継続したいか」の問いに対して、79%の方が「継続する」と回答しており、家読の取組で親子のふれあいや会話が増えたこと、一緒に楽しむことができたことを感想に書かれていた。

▲ごく一部(5%)の家庭は、「負担を感じる」と回答されていた。保護者の方から「読書月間中は、家読にも重点的に取り組みたいので、ドリル等他の宿題を減らしてもらえないか。」という意見もいただいた。家庭学習レベルアップ週間と家読週間を関わらせた取組を工夫したり、全教職員で共通理解して読書指導をしたりする必要がある。

**(研究課題) : 小規模校のデメリットの最小化①****(郷土愛を育み、豊かに伝え合う力を発揮できる他校の小学生との交流活動の工夫)**

## 具体的目標

- ・国語の文学的文章「読むこと」第3次の発展学習で他学年児童、他校の小学生(越廼小学校、名森小学校)、地域の方に並行読書の本を紹介する際、相手意識を明確にもって豊かに伝え合うことができるようにする。
- ・進んで挨拶したり、感想を豊かに表現したりする子を育成する。
- ・郷土を愛する気持ちや相手を思いやる心を育てる。
- ・視野を広げ、異なる地域や人々に親しみをもち、協力し合おうとする気持ちや態度を育む。
- ・中学入学時に不安感を減らし、自信をもって進学できるよう、豊かに伝え合う力(コミュニケーション力)を高める。

→すいせん交流in安八、in越廼での5つのやくそくのふり返りカードで郷土愛、思いやり、協力の自己評価◎が80%以上、感想文や手紙での表現に郷土愛や思いやりの気持ちを表す児童が80%以上

→交流活動の相手(越廼小、名森小の先生方)からの豊かに伝え合う力に対する評価全項目A50%以上、A+B80%以上

- ◎越廼小学校とのすいせん交流は長い歴史があるが、今年度も交流前から小規模校のデメリットの最小化するために(郷土愛を育み、豊かに伝え合う力を発揮できる他県の小学生との交流活動の工夫)に取り組んでいることを越廼小学校の校長先生にお話しし、交流後に牧小の子どもたちの「豊かに伝え合う力」を5観点で評価していただきたいとお願いした。こちらの趣旨をご理解いただき、ご協力がいただけた。
- ◎平成29年度と昨年度を比較すると、徐々にA「よくできている」の評価が増え、C「あまりできていない」は減っている。小規模校同士の交流は、交流のねらいを互いに共通理解しやすく、視野を広げたり郷土を愛する気持ちを育てたりすることができた。小規模校のデメリットの最小化に有効な方策と言える。
- ◎「豊かに伝え合う力」は、声の大きさ、言葉遣い、内容だけでなく、表情や態度も必要不可欠な要素である。そうしたコミュニケーション力を養うため、表現のプロとも言える劇団の方を招いて、「表現力アップ研修」を行った。遊びを通して、体と心を解放することが豊かな表現のコツであることを学んだ。
- ◎越廼小学校との事前交流として、遠隔システム(スカイプ)を使った交流活動を行った互いの表情を見ながら、自己紹介をしたことで、5月のすいせん交流 in 安八でも早く打ち解け、交流することができた。
- ◎名森小学校の先生方からいただいた「豊かに伝え合う力」の評価は、1項目のみAが50%を下回ったが、A+Bは全項目100%を達成できた。「三校ビブリオトーク交流会」も小規模校のデメリットを最小化させる方策として、有効であったと言える
- ◎牧小学校主催ということで、司会進行役も牧小児童が務めた。三小学校いっしょに活動する中で司会をしたり、ビブリオトークをしたり、感想を発表したりすることは、子どもたちにとってたいへんよい刺激となり、豊かに伝え合う力を一層高める機会となった。また、卒業後登龍中学校で一緒になる名森小児童とも交流を行ったことで、中一ギャップを少しでも減らすことにつながったのではないかと考える。

#### (研究課題) 小規模校のデメリットの最小化②

##### (豊かに伝え合う力を発揮できる地域の方との交流活動の工夫)

###### 具体的目標

- ・進んで挨拶したり、感想を豊かに表現したりする子を育成する。
  - ・一人一人に自分の考えを豊かに伝え合う力を発揮させる。
  - ・相手に分かりやすく伝えるための話し方、丁寧な話の聴き方を身に付けさせる。
- 交流活動の相手(保護者、地域の方)からの豊かに伝え合う力に対する評価全項目 A 50%以上、A+B 80%以上
- 推進会議の際、記入していただく評価用紙で、進んで挨拶、豊かに表現の項目で A 80%以上

- ◎昨年度は、長寿会、区長会、牧和太鼓保存会、学校評議員、民生児童委員、PTA役員等、毎回さまざまな地域の方に「豊かに伝え合う力」の評価をお願いしてきたため評価者も被評価者も評価場面も異なることになってしまい、変容を見届けることはできなかった。今年度は、小規模校存続推進会議の推進委員をお願いしており、3年間この事業の取組を見守り、ご協力をいただいていた区長会の皆様に評価をお願いしてきた。2(子どもたちは、時と場にあった言葉遣いができていましたか。)3(子どもたちは、自分の考えなどをきはき話していましたか。)5(子どもたちは、落ち着いて話を聴いたり、笑顔で受け答えしたりしていましたか。)の3項目で向上が見られた。

- ◎12月に行った「区長さんと語る会」では、5年生児童が区長会の方々のご協力で収穫できた古代米を使った調理実習(総合的な学習と家庭科の横断的学習)で、ごはん味噌汁を食べていただいた。6年生児童は、「牧の未来のために」をテーマに各自が考え、調べ、まとめあげた意見文を聞いていただいた(国語と総合的な学習の横断的学習)。区長様方には、たいへん喜んでいただき、子どもたちが牧地区の未来をここまで考えて、堂々と発表する姿から、「豊かに伝え合う力」が確かに高まってきたことにお褒めの言葉をいただくことができた。少人数だからこそ一人の子どもに地域の大人が関わる機会が多く、自然と子どもが打ち解け、心を開き、相手を思いやりながら豊かに伝える力を発揮していく姿を見ることができた。
- ◎豊かに伝え合う力を発揮できる地域の方との交流活動の工夫は、小規模校のデメリットを最小化するのに有効な方策であった。

(2) 成果物等

成果物名

「確かな読む力を身に付け、自らの考えを豊かに伝え合う子の育成」

(3) 今後の取組予定

- ・今後も小規模校を存続させる為に、小規模校のメリットを最大限に生かした教育活動推進に努めていく。
- ・平成30年度には、安八町教育委員会指定の教育研究発表会を行うために、豊かに伝え合う力を育む読書活動の研究を進めていく。

成  
通して

研究

トイク

ミ

交流

減少

ながら  
する  
向け  
やお  
を  
主題  
を豊

の2点

に確

だか  
CA

「読  
本を

人に  
策と  
らの

工  
をも  
きる

、丁  
交流  
表に

、化  
：の  
流

)  
i n  
ミ  
方)  
え  
評  
C

ミ  
i)  
ミ  
ミ  
ミ











の  
え